

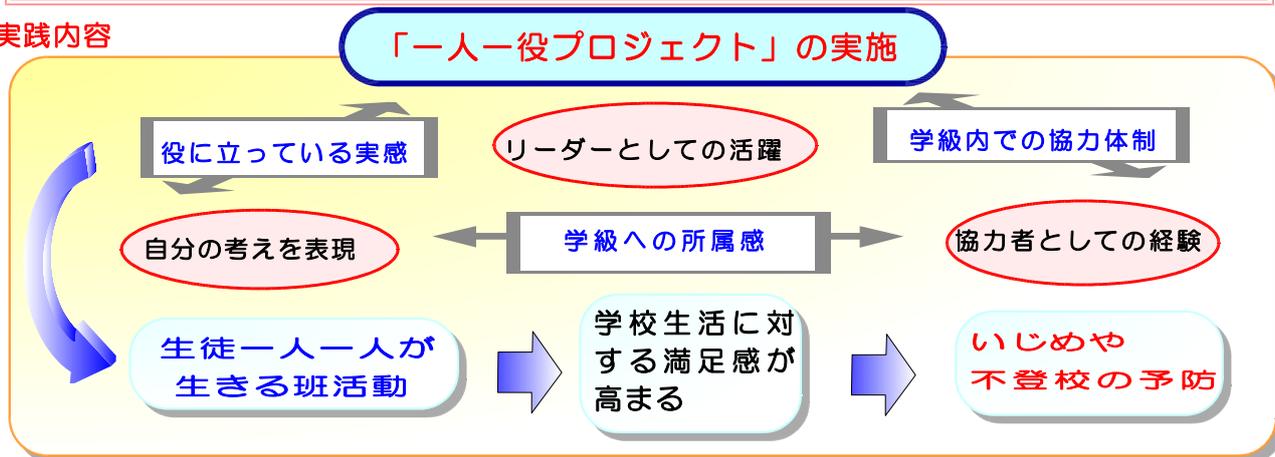
生徒一人一人が生きる班活動の工夫 みんながリーダーとなる「一人一役プロジェクト」を通して

生徒指導・教育相談班 金子 敏也（中学校教諭）

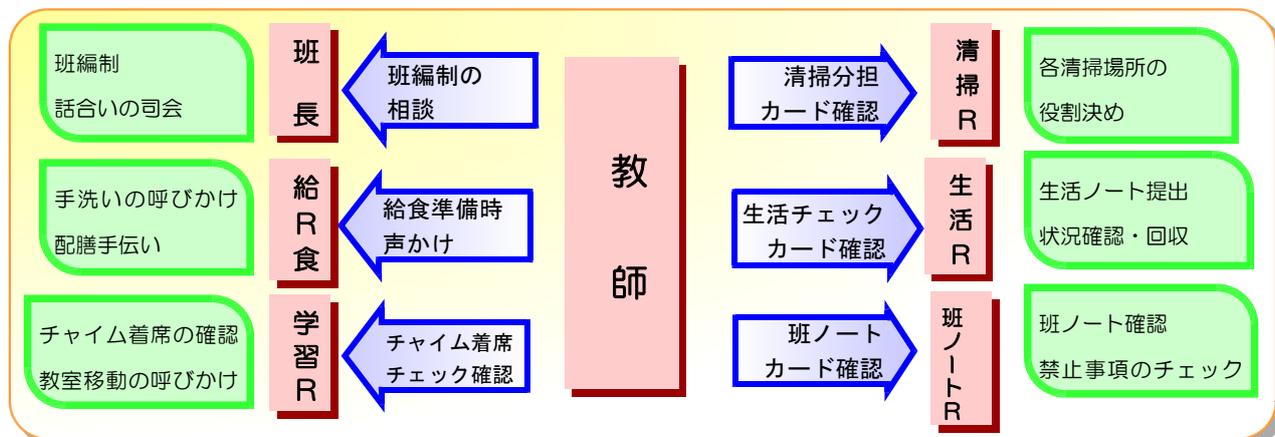
研究の概要

生徒が学校生活に満足を感じられるようにするためには、学級への所属感を高めることが重要である。課題解決のために、生徒一人一人が活躍できる活動が必要であると考え、リーダー活動を中心に班活動を活性化させようと考えた。この取組により、自分の存在が認められ欲求が満たされることで、学校生活に対する生徒たちの満足度が高まり、よりよい学級集団と成長でき、いじめや不登校が予防できるものととらえ、本課題を設定した。

実践内容



【各リーダーの仕事内容と教師の働きかけ】



実践後、リーダー役を積極的にやりたいと思う生徒が8名増加している。自分の役割を常に意識し、学級の中でみんなのために何ができるのか、生徒が考えられるようになった。「一人一役プロジェクト」は学級の一員としての所属感をもたせる手だてとして有効であったと考えられる。また、本実践により97%の生徒が「班活動が活発になった」と感じている。理由は「まわりの人とかかわりが増えた。」が圧倒的に多い。このことから、本実践は班活動の活性化につながり、友達関係を広げる効果があると思われる。

成果と課題

一人一役のリーダー経験を積み重ねることにより、自分の考えを伝える力が育ち、他の人のことも考えられるようなリーダーへと成長するとともに、学校生活にも満足を感じられるようになるということが本実践を通して明らかにできたことを成果とする。

仕事内容が明確であった清掃リーダーや生活リーダーを経験した生徒の達成感・満足度は高い。しかし、仕事が少ない役割を担った生徒の達成感・満足度は低かった。そこで、各リーダーの仕事内容を再考し、達成感や満足度がより得られるものに工夫していくことが課題である。